

# 選手の次は、あなたも

世界から来た若者も、日本各地から来た選手も戦跡を歩いていた。スポーツと平和が、糸満で交わっている。



## 帽子のつばに、刻んだ名前。

2025年8月。WBSC U-18 野球ワールドカップの前に、各国の若者が平和の礎を訪れた。アメリカ代表の選手らは、戦没者への哀悼の意を込め、自身の帽子のつばに戦没者の名前を書き記し、ある選手はこう語った。

「フィールドでは敵と味方に分かれるが、一歩外に出れば関係ない。大会前にここを訪れることができて良かった」。



## 次は私たちの番。

異国の地から来た若者が戦跡を訪れた。他県から来た選手が慰霊塔で手を合わせた。市内の高校生が言葉を選んで語りかけた。では、このまちに暮らす私たちは、すぐ近くの戦跡をいくつ訪れただろうか。

戦争を知る人が少なくなる中、戦跡は変わらずそこにある。子どもの手を引いて、その場所に一緒に行く。それが語り継ぐことかもしれない。まず一つの戦跡を訪れてみませんか。どこからでも良い。その一歩が、平和につながると信じて。

## 平和と向き合う。

2026年3月。社会人野球の三菱重工 West 硬式野球部が糸満キャンプ中に、ひめゆりの塔を訪れ、献花し、資料館を見学した。森山誠監督はこう語った。

「命、平和、未来について深く考える時間でした。今ある日常の尊さを忘れずに、この糸満の地でキャンプに取り組んでいきたい」。

## アメリカ代表のガイドを務めた高校生は、こう語った一。

今も世界のどこかで戦争が起こっている。沖縄戦について伝え続けることで、平和な世の中になることを訴え続けたい。

### 子どもと行くときは 休暇制度を使おう!

市立小中学校の児童生徒が平日に保護者と戦跡を訪れるときは、「学校家族休暇制度」を活用できます。



制度の詳細はHPをご覧ください